

令和7年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和8年3月19日（木）午後2時～午後3時

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

（委員）館委員長、本多副委員長、林委員、井上委員、花村委員、遠藤委員、須賀委員、高橋委員、鈴木委員、長安委員

（事務局）中央図書館長、中央図書館職員5名

4 傍聴人 3名

5 議題

報告事項

（1）令和7年度図書館自己点検評価について

（2）令和7年度下半期に開催したイベントについて

6 議事の概要

報告事項

（1）令和7年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。

（2）令和7年度下半期に開催したイベントについて、事務局より報告を行った。

7 会議経過

報告事項

（1）令和7年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（委員）事業評価シートにある指標には量的指標と質的指標があるが、貸出の利用者数や冊数など図書館のサービスがどれだけ利用されたかという数値が中心になっている。しかし近年の図書館評価では、図書館の本や情報が学習や仕事に役立ったか、レファレンスサービスが生活や仕事に役立ったかなど、利用成果を測る指標が大切だと言われている。令和5年度のレファレンスサービスの評価シートでは、満足度を評価指標にあげていたが、今回はなかった。レファレンスサービスは、回答件数だけでなく解決率や満足度が重要である。また、レファレンス以外の他の項目についても検討していただきたい。

（事務局）図書館サービスが利用者にとどのような影響を与えたか、どのように役立ったかという視点から評価するのは、以前から課題として認識している。レファレンスに

においては従来から、解決を提示できたか、利用者が満足したかという2点で統計を取っているが、その他の事業についても、利用成果を測る指標と、評価方法についても検討していきたいと考えている。

- (委員) 質的評価は主観的評価になる。利用者へのインパクトと、さらにその先、社会へのインパクトをもたらすことも含めて質的評価となる。図書館がどうとらえているのかが重要になる。たとえばファブスペースについては、使用例を挙げ、図書館がどうとらえているのかを示すとよい。
- (委員) 質的評価は評価の時間軸を伸ばし、図書館が何を行っているかを情報発信していくというような、相互プロセスの要素もあるということか。
- (委員) 年度だけでなく、10年先、100年先を想定して評価することもできる。たとえば地域資料の収集は、100年後には大きな財産となる。質的評価においては、さまざまなスパンが考えられる。
- (事務局) 本市でも以前、自己点検評価の研修会を職員が受講した。数値だけでなく、市民にどういう影響を与えているのかを評価していくことが重要と学んだ。レファレンスサービスの満足度調査は長年継続し、一般サービスでも利用者からの反応を蓄積している。本日いただいたご意見を参考にしながら、子どもたちの行事での反応や、利用者からの要望等を総括し、成果としてどういう見せ方をしていくかを検討していきたい。
- (委員) 学校ではタブレットでの検索が推奨されており、図書館での調べものからは遠ざかっている。子どもたちにもレファレンスサービスを普及させてほしい。
- (委員) 図書館は情報の寄り道ができるのが楽しい。何かを調べに図書館に来るが、いろいろな本を見て、寄り道をすることによって新しい見方ができるようになる。
- (事務局) レファレンスサービスは主として大人を対象としており、子どもたちに対しては児童サービスの担当職員が対応している。紙の資料では追いきれない最新情報はインターネットを使用するなど、ツールの使い分けも含めて、司書が子どもたちと一緒に調べものに取り組むプロセスを踏むサービスを行っている。
- (委員) 学校での調べ学習はネットが主流となっており、子どもたちが本を読む機会は減っているが、市立図書館の司書にストーリーテリングやよみきかせをしてもらうことが、読書に親しむ良い機会になっている。
- (委員) 子どもは限られたネット世界からしか情報を得られていないこともあり、スマホがあっても本を使って調べものをしている子もいる。たとえば図鑑など、一覧できる良さがあり、子どもたちは好きである。子どもの個性や好み、家庭環境等により、選択肢は異なると思う。
- (委員) 休刊した雑誌の周知について、検索システムでは電子媒体への移行も「休刊」と表示される。改善していただきたい。
- (事務局) ここ数年、電子媒体に移行するため紙の雑誌が休刊となることが増えている。今後は、電子媒体への移行についても、図書館から情報発信していきたい。
- (委員) 電子媒体への移行を含め、誌名の変遷の一覧表を作成することは、紙の時代から

の課題である。各図書館が行っても重複してしまうため、本来は図書館界全体で行い、共有すべきことである。

(委員) 子ども読書活動の推進について、改善の方向性として、「集会事業について、参加しやすい日時での開催を継続していく」とあるが、オンラインと対面との両方で行ってはどうか。また、自主的な読書活動を推進していくうえで、子ども、ヤングアダルト向けの読書会も効果的ではないか。

(2) 令和7年度下半期に開催したイベントについて、事務局よりスライドを表示しながら報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(委員) 図書館講演会「装丁家の仕事」は、大盛況で驚いた。マイナーな仕事なのに若い人たちを中心に集客があった。講師の川名潤氏が、ご自身の仕事の進め方、どうやってデザインしているのか等を語ってくださり、大変有意義な会だった。

(委員) 過去の会に比べ、客層が若かった。普段の講演会では見かけないような方も見られた。

(委員) チラシ、ポスターのデザインも素晴らしかった。

(委員) 図書館だからこそ、本や文化について学び、新たな発見をする、理解を深めるという機会を長年続けていることはすばらしいと思う。

(事務局) 本を愛している方が大勢いらっしゃると分かり、職員としても嬉しく思う。図書館の可能性を感じた講演会だった。

(委員) テーマ展示との連動もよかった。

(事務局) 講師も、このような形で作品を展示してもらったのは初めだと、喜んでくださった。

(委員) 浦安の図書館は蔵書数の割に本の表紙見せをするスペースが少ないと感じる。多くの情報からセレクトするセンスが重要である。

以上